

2020 年度(令和2年度)学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校 25	福山市立一ツ橋中学校
最終更新日	2020年(令和2年)4月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 めざす子ども像の実現に向け、授業改善が進んでいることがよく分かった。各学校とも児童生徒が積極的に授業に参加しようとする態度が見られるようになった。	児童生徒の現状 授業改善により、児童生徒が自ら学ぼうとする意欲の向上が見られ、授業満足度は向上傾向にある。小中合同音楽発表会等の行事も定着し、中1ギャップは解消されつつあるが、小学校で不登校傾向の児童が中学校で不登校状態にあり、指導に苦慮している。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「課題解決力」「論理的な思考力」「主体性・積極性」「コミュニケーション力」			
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> • 自分にあった課題が設定でき、解決過程での体験や結果を生活や学習に生かしている。 • 根拠を明らかにし、筋道を立てて考えながら、過程や結果をまとめたり、説明したりすることができる。 • さまざまな集団の中で、自己の役割を意識し、積極的に活動しようとしている。 • 友達との交流を大切に、相手の話をよく聞いたり、考えを受け止めたりして、お互いの存在や立場を尊重しようとしている。 			
		中学校区として統一した取組等	一ツ橋中学校区小中一貫教育推進デザインを基盤とした取り組みにより「知・徳・体」の育成をめざす。小中合同行事と小中合同の「自ら考え学ぶ授業」を実践するための研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的に学ぶことができる学校をめざす。			

III 自校

ミッション 燃えたぎる一ツ橋中魂(心に太陽・情熱と躍動)で、大地を踏まえ大空に向かって羽ばたく人間の育成	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「課題解決力」	「論理的な思考力」	「主体性・積極性」	「コミュニケーション力」	
学校教育目標 自ら輝く、ともに輝く	めざす子ども像	中期	(「見つける力」のある生徒) 自分にあった課題が設定でき、その課題を解決しようとしている	(「説明できる力」のある生徒) 根拠を明らかにし、筋道を立てて考えることができる	(「やりきる力」のある生徒) 学級の集団の中で、自己の役割を意識し、積極的に活動しようとしている	(「交流できる力」のある生徒) 友達との交流を大切に、相手の話を聞いたり、考えを受け止めたりしている
現状 ＜生徒＞ 授業改善等の取組により、授業が分かると感じる生徒は約95%にのぼるが、思考力・判断力を問う定期テストの設問通過率は約30%と伸び悩んでいる。また、学校が楽しいと感じる生徒は約91%であり、学校満足度は向上している。学校生活の満足度に比べ、主体的に学ぶ意欲が伸び悩んでいる傾向がみられ、教育活動全体を通して生徒を主役にする必要がある。 ＜授業＞ それぞれの教員が、授業改善の「めあて」を持ち取り組んだ結果、「授業で考えることが面白い」と感じる生徒が約85%となり、授業が活性化している。教師がファシリテーター役を果たし、生徒が思考を広げる授業を目指しているが、教員自身が生徒の意見を引き出し切れていないと感じていることが課題である。		後期	自分にあった課題が設定でき、解決過程での体験や結果を生活や学習に生かしている	根拠を明らかにし、筋道を立てて考えながら、過程や結果をまとめたり、説明したりすることができる	さまざまな集団の中で、自己の役割を意識し、積極的に活動しようとしている	友達との交流を大切に、相手の話をよく聞いたり、考えを受け止めたりして、お互いの存在や立場を尊重しようとしている
	研究	教科等	総合的な学習の時間			
		主題・内容等	教師が教え込む授業から、「子どもたちが自ら考え学ぶ授業」への転換～生徒が主役になる授業づくりを通して～			
	めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> • 教師が教える場面を3割、生徒が思考・活動する場面を7割の授業 • 教師がファシリテーターとして機能している授業 • テキスト、仲間、自分との対話のある授業 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立一ツ橋中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力 ₀ を 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 ₀ を 評価	達成 評価	総合 評価
3	自ら考え学ぶ 授業の推進	★	継続	・「シンプル」 「シェア」「ビジ ュアル」の要素 がある授業を実 施する。	・教員一人一人が 自ら考え学ぶ授業 のイメージを持 ち、そのイメージ をめざして指導と 評価に取り組む。	・選抜Ⅱを意識し て作成した定期テ ストにおいて各教 科平均点65点以 上。あるいは、単 元等におけるパフ ォーマンス評価を 通して、授業満足 度90%以上。								
3	自己指導能力 を育む教育活 動		継続	・めざす子供像の 視点で、学校行 事、生徒会活動を 企画・実施・評価 する。	・総合ポイント制 度、グッドナイス カード表彰活動を 実施。 ・通級指導教室、 ひまわり、特支学 級を活用した居場 所づくり。	・学校でみんなと 一緒に活動するの は楽しいと感じる 生徒90%以 上。 ・不登校生徒全校 生徒の8.5%未 満。								
7	子ども主体 の健康・体 力づくりの 推進		継続	・前年度より新体 力テストの結果向 上、給食残食率の 低下。	・月1回の部活動 優先日の実施。 ・ロスノン運動の 実施。	・新体力テストで 県平均以上の種目 を60%以上 ・月1回栄養教諭 による給食指導								
1	能動的・革新 的な教育の質 の向上		新規	・SDGsの視点 で総合的な学習の 時間を改善する。 ・業務を精選す る。	・SDGsゴール の設定。 ・学校施設時間 18:30の実行。	・時間外勤務平均 45時間以内 ・100NENアンケ ート「仕事に充実感 を感じる」を90% 以上								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。